

令和5年度
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン
助成活動報告



2024年6月10日
NPO法人北海道遺産協議会

令和5年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計3件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	静内二十間道路の桜並木	新ひだか町	新ひだか町	静内二十間道路桜並木への桜の植樹活動	400,000
2	昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	昭和新山環境保全登山学習事業	200,000
3	野付半島と打瀬舟	別海町、 標津町	NPO法人野付エコネットワーク	野付湾の自然環境の重要性を象徴する天然記念物コクガンの最新研究成果に係わる講演会の実施	200,000

1. 静内二十間道路桜並木への桜の植樹活動

- 実施主体：新ひだか町
- 実施団体URL：<http://www.shinhidaka-hokkaido.jp/>（新ひだか町HP）
- 助成額：400,000円

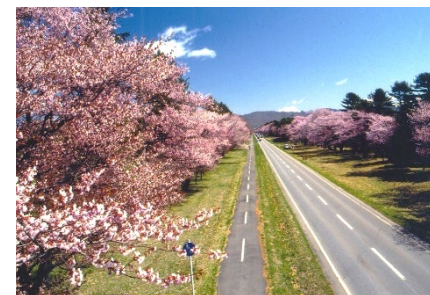
—活動内容—

- 二十間道路桜並木は、「日本の道百選」「さくら名所百選」「北海道遺産」に選ばれるなど、他に類を見ない日本屈指、また世界に誇る桜の名所であり、後世に引き継いでいかなければならない「まちの宝」。老木化や異常気象などの強風による倒木・枝折れ、さらには害虫被害も深刻であるため、現在、樹勢回復事業に取り組んでいる。
- 今年度は6本のエゾヤマザクラを植樹することができ、令和元年度から合計で26本となった。
- 当日は町主催の桜並木保全ボランティア活動と併せて開催したことから、植樹式にも多くの町民が参加し、本取組について理解を深めた。



遺産の名称:

「静内二十間道路の桜並木」
(新ひだか町)



二十間道路は、和種馬の大型改良のために1872(明治5)年に黒田清隆が進言し、静内町(現・新ひだか町)から新冠町にまたがる地域に開設した御料牧場のための行啓道路。龍雲閣まで直線で約7km、幅20間(約36m)にわたって両側に2,000本をこえるエゾヤマザクラなどの並木が続く。雄大な日高山脈を背景とした景観は我が国で類を見ないスケールとして知られる。

2. 昭和新山環境保全登山学習事業

- 実施主体：昭和新山国際雪合戦実行委員会
- 実施団体URL：
<http://www.yukigassen.jp/>（昭和新山国際雪合戦実行委員会HP）
- 助成額：200,000円

－活動内容－

- 10月に雪合戦メンバー含む13名が外来植物であるアメリカオニアザミ駆除に参加した。参加者は怪我防止のため皮軍手を装着し、20kg入りの米袋袋分のアメリカオニアザミを駆除した。
- アメリカオニアザミは鋭いトゲを持ち、普段入山が禁止されている昭和新山で繁殖するエゾシカの皮膚に種子がついて昭和新山全域に生息域を拡大している可能性が高く、特にエゾシカの通り道に多く見られた。地熱地帯（溶岩ドーム付近）にも繁茂の兆候が見られたが、第1種特別区域内であり、土地の掘削は断念した。
- 今後は春先に萌芽する新芽を駆除するなどの対策を行うこととし、継続的に環境保全に努める旨、参加者間で共有、合意した。



遺産の名称:

「昭和新山国際雪合戦大会」
(壮瞥町)



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。

